

漱石年譜

| 西暦 | 和暦 | 年齢 | 居住地 | できごと・作品 | 年表 |
|-------|--------------|-----|-------------|--|---|
| 1867年 | 慶応3年 | 0歳 | ①江戸牛込馬場下横町 | 1月5日(2月9日)、父・夏目小兵衛直克(51歳)、母・千枝(42歳)の五男末子として江戸牛込馬場下横町(現:新宿区喜久井町一番地)に生まれ、金之助と命名される。4人の兄(大一12歳(夭折)、金之助10歳(夭折)、和三郎9歳(夭折)、久吉8歳(夭折))と1人の姉(ちか1歳(夭折))、2人の異母妹(佐和(さわ22歳)、房(ふさ17歳))がいた。夏目家は代々町方名主を勤め、牛込周辺の十ヶ町及び高田馬場一帯を支配した。母方の実家は四谷大番町(現:新宿区大京町)の質屋兼金貸、千枝はその福田庄兵衛の三女、10年ほど武家屋敷に奉公、その後下谷の質屋へ嫁ぐ。醜縁し里に戻る。芝金杉得監権(現:港区芝二丁目)の高橋長左衛門(高津家御用達の伊藤)の養女りて入籍。家運は神退りつつあった。生後間もなく四谷のおおおの道長(一説に源兵衛の八百屋)に里子に出されるが、夜店に曝されていたところを姉きわによってすぐに連れ戻される。 | 10月、倒幕の密約、薩長藩に下る。大政奉還。12月、王政復古の大号令 |
| 1868年 | 慶応4年 明治元年 | 1歳 | ③内藤新宿仲町 | 11月、夏目家の養生をしていたことのある内藤新宿北町裏十六番地(現:新宿一丁目二十三番地)の当時太宗寺門前名主、塩原昌之助(当時29歳)、やす(同29歳)夫妻の養子となり、塩原金之助となる。 | 坂本竜馬死去 1月、戊辰戦争始まる。3月、五か条の御誓文 |
| | 明治2年 | 2歳 | ④浅草三間町 | 4月27日、名主制度が五十番組制度になり、塩原昌之助が四十一番組の添年番となり、養父母と一緒に浅草三間町(現:台東区寿町4丁目、雷門1、2丁目あたり)の借家に転居 | 江戸城無血開城 版籍奉還 |
| 1870年 | 明治3年 | 3歳 | | 3月ごろ痘瘡にかかり、薄く痘痕が残る。 | |
| 1871年 | 明治4年 | 4歳 | ⑤内藤新宿北町十六番地 | 東京府の五十番組制度が大区小区制度に代わり、6月13日、塩原昌之助が添年番を免ぜられたため、内藤新宿(太宗寺門前あたり)に戻り、休業中の妓楼「伊豆橋」(現:新宿2丁目1-8-10)(太宗寺の真向かい)に留守番代わりに住む。 | |
| | 明治5年 | 5歳 | | 塩原昌之助が、第三区十四小区(現:赤坂田町1丁目)の副戸長となる。前年公布の戸籍法に基つき、塩原家の長男として届け出される。 | ミル、自由の丘 廣瀬地獄 福沢諭吉 学問のすすめ |
| | 明治6年 | 6歳 | ⑥浅草諏訪町四番地 | 3月、塩原昌之助が第五区五小区の戸長となり、隅田川沿いの浅草諏訪町四番地(現:台東区駒形2丁目)の投所の棟続きに転居。 | ウイーン万国博覧会 12月、日朝修好条約調印 3月、奥刀令 9月、札幌農学校開校 |
| 1874年 | 明治7年 | 7歳 | ⑦浅草寿町 | 春頃、塩原昌之助が旧幕臣の末に日根野かつと交渉を持ったことから、妻のやすの不和のため、やすと金之助は菊久井町の実家に一時寄寓。その後まもなく二人は養母やすの実家根本現二の家(小石川白山前町二五番地)を頼り、仮住う(小石川指木谷町)後、離婚を決意、塩原昌之助に預ける。(浅草寿町十番地、現:台東区寿町)に日根野かつ、連れ子のれん(9歳)と暮らす。金之助もこの家から戸田学校に通う。 12月、金之助は浅草区寿町七番地(現:台東区蔵前4丁目19番12号)の第五中学区八番小学戸田学校下等小学校第八級に1年遅れで入学。 | 大阪〜神戸間に鉄道が開通 |
| | | 8歳 | | 4月、養父母離婚。5月30日、戸田学校下等小学校第八級・第七級を同時に卒業。実父、夏目直克と養父、塩原昌之助との争いが生じ、12月末から金之助は塩原家に在籍のまま、再び実家(牛込喜久井町)に引き取られる。 | |
| 1876年 | 明治9年 | 9歳 | 牛込喜久井町 | ⑧市谷小学校の下等第三級(現在の区立愛宕日小学校の前身、現:新宿区市谷山伏町)に転校?。10月同3歳を卒業。 | 上野精養軒開業 |
| | | 10歳 | | 5月、市谷学校下等小第2級を卒業、12月同1級を卒業。塩原昌之助、下谷西町一五番地(現:台東区東上野1丁目)に家を新築する。 | 審判大学創設 |
| 1878年 | 明治11年 | 11歳 | | 2月、友人たちと回覧雑誌に「正成論」を書く。5月ごろ⑨金華学校(神田区猿樂町二番地、現:千代田区神保町1-30)の小学尋常科第二学級後期に転校し、10月卒業。異母姉 | 5月、大久保利通暗殺される 12月、参謀本部を設置 |
| 1879年 | 明治12年 | 12歳 | 中学校 | 府立第一中学校(一ツ橋) 3月、東京府立第一中学校(一ツ橋、現:都立日比谷高校の前身)の正則科第七級乙に入学。4、5月ごろから不登校。 | 朝日新聞創刊 |
| | | 13歳 | | 1月、牛込馬場下に火災発生、実家は土蔵を残し消失。しばらく同区香町に住む。 | |
| | | 14歳 | 漢学塾二松学舎 | 1月21日、実母・千枝死去。3月、東京府第一中学校を中退し、4月ごろ、⑩漢学塾二松学舎(麹町区1番町四〇三番地、現:千代田区三番町6番16号)第三級一課に転校入学。11月同校第二級3課を卒業。 | このころスペンサーの著書流行 岩波書店創業 |
| | | 15歳 | 成立学舎 | この年の暮ごろまで二松学舎に在籍するがいつ退学か不明。翌年の成立学舎に入学するまでの様子はいわらない。 1、5、6年たびたび塩原家に出入り。 | 早稲田大学創設 |
| | | 16歳 | 小石川新福寺 | 7月ごろ東京大学予備門受験準備のため、秋、神田駿河台給木町一三番地。(現:千代田区神田駿河台2丁目)⑪9月、成立学舎に入学、英語の勉強を始める。同級に橋本左五郎、太田達人、新渡戸稲造と席を並べる。 | 鹿鳴館開館 3月、矢野龍渓「経国美談」 |
| 1884年 | 明治17年 | 17歳 | 大学予備門 | ⑫小石川橋本水原の新福寺に下宿。9月11日、⑬東京大学予備門予科(一ツ橋外神田表神保町一〇番地、現:千代田区神保町1丁目)に入学。米山保三郎、正岡子規、中村是公、太田達人、橋本左五郎、芳賀矢一、南方熊楠、山田美妙らと知り合う。 | 地租改正 華族令 秩父事件 |
| | | 18歳 | | 橋本、中村ら約10人と神田猿樂町の末富屋に下宿。5月31日から6月1日にかけて太田達人、柴野(中村)是公、ら十人会の仲間と鎌倉徒歩旅行。腹膜炎で学年末試験を受験で | |

| | | | | | | |
|-------|-------|-----|--------------|---|---|--|
| | | 19歳 | | 第一高等学校と改称 | 4月、大学予備門が第一高等学校と改称される。7月、腹膜炎にかかり進級試験が受けられず落第。9月、中村是公と江東義塾（本所区松坂町二丁目二〇番地。現：墨田区両国二）住み込みで約一年間教師となる。英語、幾何学を教え、寄宿舎で暮らす。午後2時 | 帝国大学に改名 |
| | | 20歳 | | | 3月21日長兄大助（大一、享年31歳）、6月21日次兄直則（宗之助、享年28歳）が肺結核のため死去。夏、中村らと富士山に登る。7月下旬、急性トラホームを患い、江東義塾を辞め自宅から通学する | |
| 1888年 | 明治21年 | 21歳 | | 牛込区牛込喜久井町 本科大部（文科大学）英文科に進学 | 1月28日 夏目家に戻宿。夏目金之助にかえる。4月30日父直克、塩原昌之助とかつに（出入り禁止）の証書送る。7年間の療育費240円、170円、即金、残り70円月賦3円ずつ支払うことで妥結 7月、第一高等中学予科を卒業。9月、第一高等中学校本科大部（文科大学）英文科に | 森鷗外ドイツから帰国 |
| 1889年 | 明治22年 | 22歳 | | | 1月頃、正岡子規を知る。5月9日 正岡子規吐血。5月13日 米山保三郎と子規を見舞う。「姉らふと鳴かずに笑え時鳥」漱石最初の句 子規『七神集』に「漱石」と署名。（漱石の音節からとり、頑固者の意味）。8月、房州を周遊して撰文紀行文『本層録』を松山の子規に送る | 2月14日、森有礼踏殺 2月、大日本帝国憲法発布 山田英妙「胡蝶」坪内逍遙 森鷗外「舞姫」 |
| 1890年 | 明治23年 | 23歳 | | | 7月、特待生となる。17日、神田駿河台の井上眼科で「美しい女」にあつて衝撃を受ける。翌日この件で子規に手紙を書く。28日、三兄直矩の嫁登世が悪阻のため死去。「君逝きて浮世に花はなかりけり」、また東京師範付属女学校の生徒、大塚楠緒子に恋愛感情を抱く。12月、J、Mディクソン教授に頼まれ「方丈記」を英訳す。 | 大津事件 東北本線全通 |
| | | 25歳 | | | 4月5日、徴兵の関係で分家局を出し、北海道後志国岩内郡吹上町17番地浅岡仁三郎方に戸籍を移す。5月、東京専門学校（現・早稲田大学）の講師となる。 7月、正岡子規と京都を訪ねる。（岡山、松山を旅する）。高浜虚子を知る。10月5日「ヒトマン論」を発表。 12月1日 子規陸奥南の日本新聞社に入社。東京専門学校講師となる。月給1.8円 | 芥川龍之介誕生 |
| 1893年 | 明治26年 | 26歳 | 東京帝国大学大学院に進学 | | 1月29日 「英国の詩人の天地山川に対する観念」と題し講演。「哲学雑誌」に連載。「哲学雑誌」に連載。7月、東京帝国大学大学院に進学。8月、学習院大学英語教師の就職話ががあったが、重見周吉に決まり、不調に終わる。 10月ごろ東京専門学校講師に加え、喜納治五郎のすすめもあって東京高等師範学校英語専任となる。年俸450円。小石川の宝蔵院に下宿 | |
| | | 27歳 | | 小石川法蔵院 | この年から翌年にかけて神経衰弱が著しくなる。この年だけで野野亮吉と14、5回会う。10月、神経衰弱克服のため、寄宿舎を出て小石川の法蔵院に下宿。8月松島を旅し瑞巖 12月下旬から翌年1月上旬、菅虎雄の紹介で鎌倉円覚寺塔頭瑞源院に参禅、座禅を組む。神経衰弱。 | 5月、北村透谷自殺、高等学校令 8月、日清戦争始まる |
| 1895年 | 明治28年 | 28歳 | 中学教員 | 松山市(城戸堀旅館・三番町)菅重商の愛松亭(万翠荘、一番町3の3)、上野義方家(二番町八) | 4月、愛媛県尋常中学校(現松山東高等学校)の英語講師として赴任(菅重雄紹介)。7月帰郷した子規と愚庵(仏庵にて俳句交遊。8月、漱石の下宿に往む。俳句に熱中する。高浜虚子、寒川粗忽、柳原権堂らと集う。12月、貴族院書記官長中根重一との長女鏡子と見合い、婚約する。 | 1月、樋口一葉「たけくらべ」 下関条約、三国干渉 |
| 1896年 | 明治29年 | 29歳 | 高校講師 | 熊本市光琳寺町(下通町103)に新宿 8月、合羽町二三七(併井二丁目九番十一号)に転 | 4月、松山中学を辞任し熊本第五高等学校(現熊本大学)に赴任(菅重雄招聘)。6月、鏡子と結婚。7月教授となる。 | 3月、森鷗外・幸田露伴・芥藤緑雨「三人冗語」「めざま |
| | | 30歳 | | 9月、鹿託郡大江村四〇一(新館敷町1丁目15)に転居(現存) | 3月、鏡子のヒステリー激化。6月、幸田寅彦が初めて訪問する。4月、漱石の辭職で山川信次郎が五校赴任。漱石宅に一時寄宿。5月米山保三郎死去。6月、父直克死去(享年80歳)7月、鏡子とともに上京妻の実家の中根家(麹町九内幸町)に滞在。鏡子流産、鎌倉材木庄別荘で静養。在京中根岩庵の句会に参加。暮れから翌年正月にかけて、山川信次郎と小矢村の前田榮山子別邸で過ごす。(草枕の素材となる) | 東京帝国大学に改称 |
| | | 31歳 | | 3月、井川瀬町八番地に転居(現:1番30号) 7月、内坪井町78番地に転居(現存:内坪井町4番 6月、北千代畑町78番地(現存:北千代畑3-9-16) | 6月、鏡子が白川に投身自殺未遂。このころ五校生の幸田寅彦が、初めて訪問 | |
| | | 32歳 | | | 5月、長女鏡子誕生。6月、英語主任になる。8月から9月上旬、山川信次郎と阿蘇旅行、二百十日の素材となる。 | 3月、子規が摂津で短歌界始める |
| 1900年 | 明治33年 | 33歳 | 英国留学 | ロンドン ガワーストリー76番地下宿 | 7月、文部省から英語研究のため2年間の英国官費留学を命ぜられる。学費年1800円、9月、横浜から倫敦へ向かう。9月8日ドイツ下社の自動車プロセシオン号でイギリスに向け横濱を出発。神戸・長崎・上海・福州・香港・シンガポール・ペナン。コロンボ、スエズ・ポートサイド・なほり、ジェノバ着、汽車でパリに向かい、万国博覧会、10月28日、ロンドン到着。11月シェクスピア研究家グレイ教授に就く。 | 3月、治安警発法公布 4月、パリ万博開催 |
| | | 34歳 | | ブライオリロード85番地 フロッドロード16番地、ステラロード2番地、グレアムモンのザ・フェイスへ | 1月、次女恒子誕生。5月ベルリンから池田菊苗が来、意見交換。「文学論」の執筆計 | |
| 1902年 | 明治35年 | 35歳 | | | 9月、留学費の不足と孤独感から神経衰弱がひどくなる。正岡子規根岸の自宅(下谷区上根岸82。現:台東区根岸2丁目5番地)で死去(9月19日 享年36歳)。10月、スコットランド旅行、12月、ロンドンを出、帰国の途に着く。 | 5月、子規「病床六尺」日英同盟 |
| 1903年 | 明治36年 | 36歳 | | 牛込区欠来町三番地中の丸 本郷区駒込千駄木町五十七番地(通称猫の家) (斎藤阿具の持家)に転 | 1月20日、朝長崎帰省。1月21日、熊本に入る。1月24日、9時29分新橋着。鏡子の実家(中野重一宅)に仮住まい。 1月24日東京に帰着。五高教授免官。一高及び東京帝大文化大学に就任。藤村操投身自殺 3月3日本郷区千駄木五七番地(現:文京区向ヶ丘2丁目2番7号)に転居。4月、第一高等学校英語講師(年俸700円)、ラフカディオ、ハーンの後任として東京帝国大学英文科講師を兼任(年俸800円)。7月、神経衰弱が悪化。文科大学長に同書籍の購置事務員が職 9月21日「英文学概論」、「マクベス」、「リア王」、「ムッシュ」、「フランス」、「オセロ」、「グエニス」の商人」、「ロミオとジュリエット」講義。40年3月迄、10月、三女榮子誕生 | 6月、滝廉太郎没 伊藤左千夫ら「馬酔木」創刊 11月、平民社「平民新聞」 |

| | | | | | | |
|-------|---------------|-----|---------|--------------------------|---|--|
| | | | | | 夏、黒い猫が迷い込む。4月、明治大学予科の非常勤講師、9月小泉八雲死去。11月、神経衰弱再発。高浜虚子に勧められ、文筆会「山会」での朗読のため「吾輩は猫である」カール・バルド博物館（学芸） | 2月、日露戦争開戦 3月、二葉亭四迷、大阪朝日新聞に入社 9月、小泉八雲没 |
| 1904年 | 明治37年 | 37歳 | | | 新体詩「水底の感」を記す。「ホトトギス」に俳体詩を発表。 | |
| 1905年 | 明治38年 | 38歳 | | | 1月1日、「吾輩は猫である」を「ホトトギス」に発表。2月18日、帝国文学に「倫敦塔」発表。4月12日、「幻影の盾」、5月、「琴のそら音」（七人）、7月26日「一夜」、中央公論、11月「離露行」、。四女愛子誕生。このころから教師を辞して創作家になる夢が膨らむ。鈴木三重吉、森田草平、小1月、「趣味の遺臣」（帝国文学）。1月5日、内田魯庵からトルストイの「イワンの馬鹿」寄贈され、共感。3月14日ごろ「坊ちゃん」の構想ひらめく。 | 9月、日露戦争勝利 ホーマス条約調印。 日比谷焼打ち事件 10月上田敏「海潮音」 3月、鉄道国有法公布 島崎藤村「破城」出版 |
| 1906年 | 明治39年 | 39歳 | | 本郷区西片町十一一〇一七 | 3月23日「坊っちゃん」、4月ホトトギスへ、7月26日「草枕」起稿、8月9日脱稿（新小説）。9月10日「二百十日」10月（中央公論）。木曜会始まる。12月本郷区西片町10のろの7号（現：文京区西片1丁目）に転居 | |
| 1907年 | 明治40年 | 40歳 | 朝日新聞社社員 | 牛込区早稲田南町七番地 6月、長男純一誕生 | 1月、「野分」（ホトトギス）。一高・帝大を辞し、3月、朝日新聞社に招聘（池辺三山）、入社。新聞紙上に百回程度の連載小説を年一回書くことを条件に、月給200円と賞与。3月末から4月にかけて京都、大阪を旅行。 5月3日、「入社の辞」東京朝日新聞。5月4日、「文芸の哲学的基礎」、第1回から第27回、5月7日、「文学論」大倉書店。「読書久報」。6月23日～10月29日。総理大臣西園寺公望から文士招待会開会に招かれるが断る。「時勢半ば」に出かけり。早稲田南町に転居（漱石山房）。胃病に苦しむ。木曜会を始める | 朝 村山龍平 上野理一 筆 島居素川 (木曜会) 松根 東洋城 寺田 畜産 坂元 雲鳥 野間 真綱 野村 伝四 小宮 豊隆 鈴木 三重吉 森田 草平 野上 豊一郎 安部 能成 阿部 次郎 久米 正雄 芥川 龍之介 松岡 譲 横口 五葉 津田 青楓 |
| 1908年 | 明治41年 | 41歳 | | 12月、二男伸六誕生 | 「抗夫」1月～4月、6月「文鳥」（大阪朝日新聞）、7～8月、「夢十夜」「三四郎」9月～12月連載。 | |
| 1909年 | 明治42年 | 42歳 | | 6月21日、日根野れん亡 | 1月、永日小品。3月、講義論文「文学評論」春陽堂。 「それから」6月～10月、満鉄總裁中村是公と中国東北部、朝鮮半島を旅行「満韓とところどころ」「朝日文芸欄」創設主宰、6月、胃潰瘍で入院。養父・塩原昌之助から金の無心をされる。 8月、伊豆修善寺で大量吐血、危篤状態に。長与医院 森成麟造石派遣 10月、東京の長与胃腸病院に再入院、10月～「思い出すこと」連載。11月、大塚権緒子の訃報。「有る種の菊投げ入れ箱の中」 | 1月、森田草平「煤煙」、島崎刊。臨外らが支援。 |
| 1910年 | 明治43年 | 43歳 | | | 「門」3月～6月。5女雛子誕生。 | 3月、臨外「青年」発表。 4月、武者小路実篤、土が直哉 有島武郎ら「白樺」創刊。 ロンドンで日英博覧会 |
| 1911年 | 明治44年 | 44歳 | | | 2月21日、文学博士号を辞退。4月、退院。6月、長野へ夫人同行講演旅行。 18日「教育と文藝」(高田) 森成宅治。21日「寒堂の親た」職業」(長野) 8月、関西へ講演旅行。13日「道義と職業」(明石)。15日「現代日本の開化」(和歌山)、17日「中味と形式」(堺)。18日「文芸と道徳」(大阪) 胃潰瘍再発し、大阪で入院。9月、痛覚、痛失手手術する。11月、五女ひな子急死。 9月30日、朝日内紛、漱石發表「朝日文芸欄」廃止 | |
| 1912年 | 明治45年 大正元年 | 45歳 | | | 「彼岸過迄」1月～4月。2月、池辺三山没。3月、三山居士(東京、大阪朝日新聞) 「行人」前年12月～2年4月・9月～11月。7月明治天皇が崩御、大正となる。 | |
| 1913年 | 大正2年 | 46歳 | | | 1月、強い神経衰弱となる。3月末、胃潰瘍のため病臥。9月、「塵勞」発表 | |
| 1914年 | 大正3年 | 47歳 | | | 「心」4月20日～8月11日連載。(岩波書店刊行) 6月、戸籍を北海道岩内郡岩内町大字鷹台54番地から東京府牛込区早稲田南町7番地に転籍する。9月、4度目の胃潰瘍で1か月の病臥。11月25日、学習院輔仁会の依頼で「私の個人主義」と題して講演する。 | |
| 1915年 | 大正4年 | 48歳 | | | 「硝子戸の中」1月13日～2月23日、3月19日津田清楓の招きで京都旅行、滞在中5度目の胃潰瘍、妻鏡子を呼ぶ。4月、帰京。「道草」6月～9月連載 11月、中村是公と湯河原温泉に行く。12月、芥川龍之介、久米正雄が弟子になる。 | 1月、第一次世界大戦参戦 |
| 1916年 | 大正5年 | 49歳 | | | 1月、「点眼録」、リューマチ治療のため湯河原温泉に行く。4月、糖尿病と診断される。真綿第一郎の治療を受ける。「明暗」未完(188回) 6月～12月 11月22日、胃潰瘍再発し臥床する。様態次第に悪化。12月9日 午後7時前、胃潰瘍により死去。夜、森田壮平の発案で新海竹太郎がデスマスクを取る。夫人からの解剖の発議あり。、12月10日、遺体の解剖が東京帝国大学で行われ、長与文郎が執刀。12月12日、午前8時出棺。10時、青山路上で葬儀。落合化相場に手茶見。雑司ヶ谷墓地に埋葬、永 | 1月、臨外「山椒大夫」 |
| 1917年 | | | | | 1月、「明暗」岩波書店。11月、「漱石俳句集」岩波書店。 6月、「漱石詩集 印刷附」岩波書店 | 1月、臨外「浪江袖書」「高瀬舟」「寒山拾得」 |

